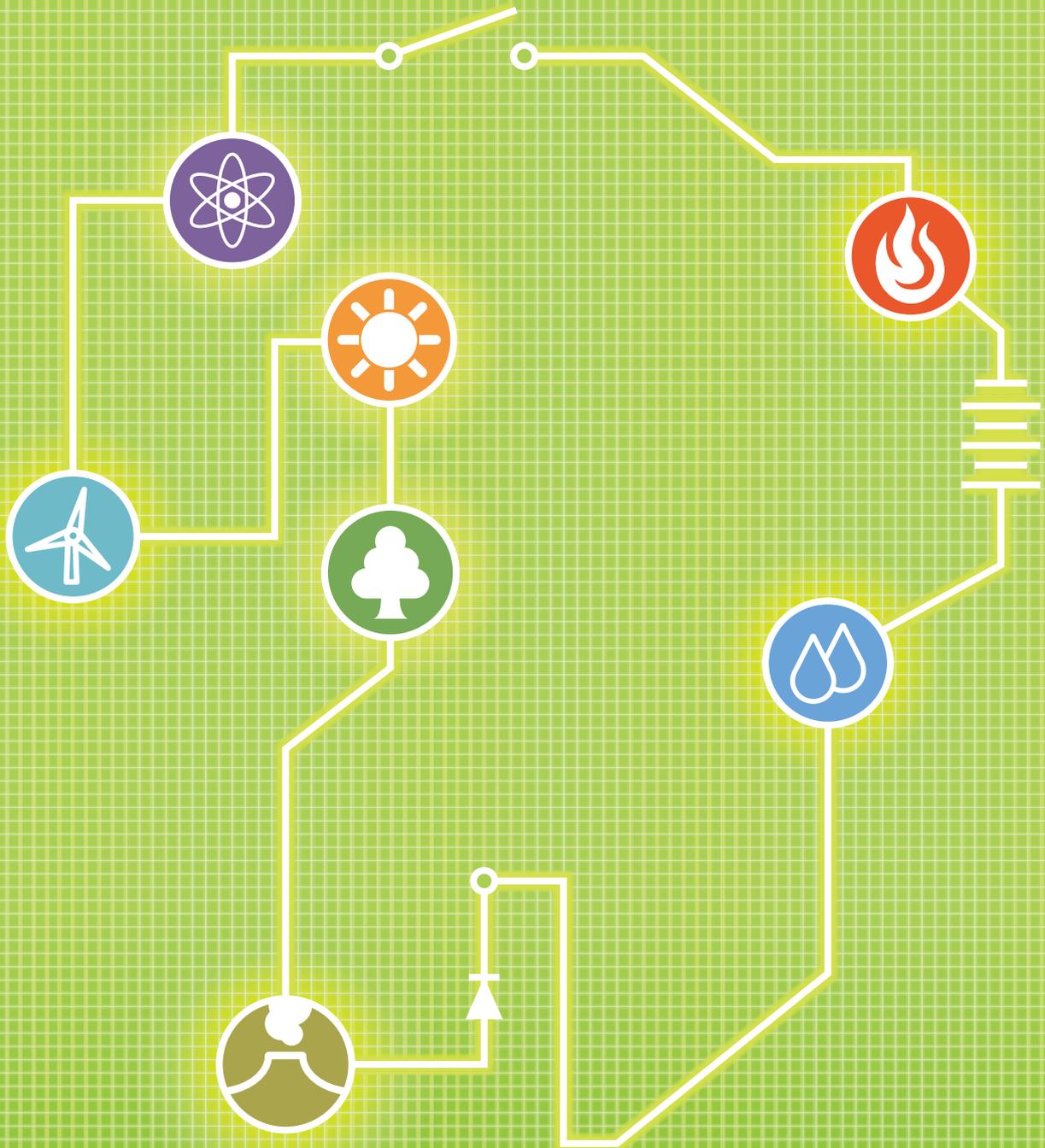




環境にやさしい企業活動を目指して

快適で、環境にやさしい、 毎日のために。

2014 九州電力 環境アクションレポート ダイジェスト



 九州電力

ずっと先まで、明るくしたい。

2014

九州電力 環境アクションレポート ダイジェスト

快適で、 環境にやさしい、 毎日のために

ずっと先まで、明るくしたい。
この「九州電力の思い」のもと、
九州電力は、将来も見据えながら、
環境への取組みを進めています。
このダイジェストでは、
2013年度の主な活動をご紹介します。



CONTENTS

- 地球にやさしいエネルギーを、しっかりと。
・供給面・使用面での取組み 03
- 再生可能エネルギー 05
- 環境にやさしい取組みを、着実に。 07
- 地域に根ざした取組みを、皆さまでともに。 09

九州電力の思い ずっと先まで、明るくしたい。

「快適で、そして環境にやさしい」
そんな毎日を子どもたちの未来につなげていきたい。
それが、私たち九州電力の思いです。

この思いの実現に向けて、私たちは次の4つに挑戦しつづけます。

- 1 地球にやさしいエネルギーをいつまでも、しっかりと
- 2 「なるほど」と実感していただくために
- 3 九州とともに。そしてアジア、世界へ
- 4 語り合う中から、答えを見出し、行動を



ホームページにおいて
九州電力グループの
環境への取組みについて
より詳しくご紹介しています。
九州電力
環境アクションレポート

当社の事業活動と環境負荷の状況(2013年度)

発電関連

原子力発電用燃料
0トン

火力発電用燃料
石炭631万トン、重油209万kℓ、
原油104万kℓ、天然ガス486万トンなど

発電用水
623万トン

環境対策用資材※1
アンモニア1.0万トン、石灰石11.6万トン

オフィス等での活動

車両用燃料
ガソリン・軽油1.8千kℓ

消耗品
コピー用紙購入量438トン など

※1:火力発電所の排ガスの中から、大気汚染物質を取り除くために使用する資材。



2014 九州電力 環境アクションレポート(Web版)
http://www.kyuden.co.jp/environment_booklet_index

会社概要 (2014年3月末現在)

設立年月日 1951年5月1日 売上高 16,829億円
 資本金 2,373億円 総資産額 42,180億円
 株主数 162,442名 従業員数 13,186名
 供給地域 福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、
 宮崎県、鹿児島県

供給設備

水力発電	143か所	358.3万kW
火力発電	9か所	1,068.0万kW
地熱発電(バイナリー含む)	6か所	21.2万kW
内燃力発電(ガスタービン含む)	34か所	39.9万kW
原子力発電	2か所	525.8万kW
風力発電	2か所	0.3万kW
太陽光発電	1か所	0.3万kW
自社計	197か所	2,013.8万kW
他社計	-	276.0万kW
発電設備合計	-	2,289.8万kW
変電所	591か所	7,045.9万kVA
送電線路こう長	10,669km	
配電線路こう長	138,759km	

お客さま数

電灯	779万口
電力	92万口
合計	871万口

(注)供給設備の数値については、四捨五入のため合計値が合わないことがあります。

九州電力グループ環境アクションプラン

持続可能な社会の実現に貢献し続けていくために、事業活動と環境を両立する取組みを九州電力グループ一体となって進めています。これらの取組みを着実に推進するため、毎年度、5つの柱からなる活動計画「九州電力グループ環境アクションプラン」を策定しています。



事業活動

発電

原子力発電	0kWh
火力発電(内燃力を含む)	625億kWh
水力発電	38億kWh
その他(地熱・風力・太陽光)	14億kWh
発電所所内電力量	▲25億kWh
揚水動力用電力量	▲6億kWh

他社からの購入 **242億kWh**
 (うち再生可能エネルギー 44億kWh)

送配電ロス **▲43億kWh**
 (変電所所内電力量 ▲1億kWhを含む)

お客さまへの販売電力量^{※2}

844億kWh

環境負荷

温室効果ガス
5,210万トン-CO₂など
 大気汚染物質
SOx 3.3万トン、NOx 3.4万トンなど

排水
COD排出量 6トンなど

産業廃棄物
埋立処分量 0.4万トン

低レベル放射性廃棄物
396本(200ℓドラム缶相当)

※2:電力量については、四捨五入のため合計が合わないことがあります。

地球にやさしいエネルギーを、しっかりと。

供給面・使用面での取組み

最適なエネルギーミックスの追求を基本に、
電気を「つくる」から「つかう」まで、すべてのプロセスで取り組んでいます。

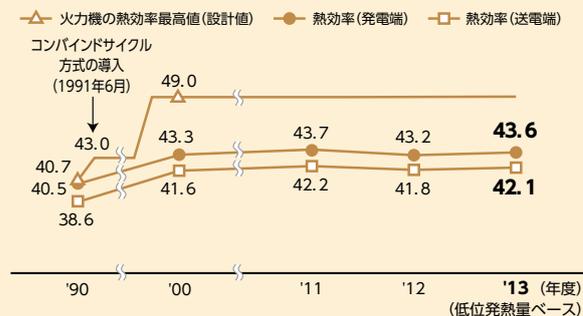
電気の供給面での取組み



電気をつくる

- 安全の確保を前提とした原子力発電の活用
- 再生可能エネルギーの積極的な開発・導入
- 火力発電所の熱効率維持・向上

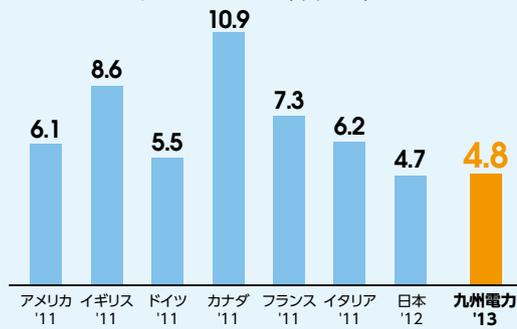
● 火力総合熱効率 (単位: %)



電気をおくる

- 送電線・配電線におけるロス率の低減

● 送配電ロス率の各国比較 (単位: %)



担当者の声

ワンランク上の火力発電所を目指して

私は、火力発電の中でも比較的環境にやさしいLNGを燃料とした新小倉発電所で電気をつくる仕事に携わっています。お客さまへ良質な電気をお届けするために、「一秒たりとも電気の供給を途絶えさせない」ことを常に意識しながら、三交代勤務の中で、運転状態の昼夜を問わない監視や五感をフルに活用した現場設備の点検などに、

職場のメンバーと力を合わせて一生懸命取り組んでいます。

これからも、ワンランク上の火力発電所を創り上げるべく、更なる熱効率の向上やトラブルの未然防止などに努めていきます。

新小倉発電所 発電グループ
ひさのまゆこ
久野 真由子



地球温暖化の主な原因とされている温室効果ガスをできるだけ減らす、ということも私たちの大切な使命です。火力発電の熱効率維持・向上や送電・配電の際のロス低減、節電への積極的な取組みなど、プロセスごとに温室効果ガスの排出抑制に努めています。

電気の使用面での取組み

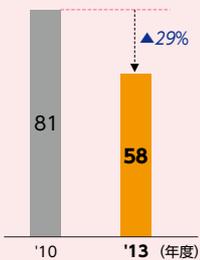


電気をつかう

- お客さまや地域と協働したピーク需要抑制や省エネルギーの推進
- 事務所や社員の家庭における節電・省エネの実施

● 全社オフィス電力使用量削減実績及び取組内容

(単位:百万kWh)



昨夏の取組内容	
室温	温度 室温28°Cの徹底 軽装 クールビズの拡大(襟付きポロシャツ等)
照明	間引き率50%以上 日中(晴天時)は可能な限り消灯
OA機器	不使用時のプラグ抜きの徹底
その他	給湯器・冷水機等の停止 エレベーターの間引き 原則上下5階は階段利用

その他の取組み



- 海外との技術交流などを通じたCO₂排出抑制
- CO₂以外の温室効果ガス(六フッ化硫黄(SF₆)など)の排出抑制

● インドネシアで地熱発電所の開発に参加

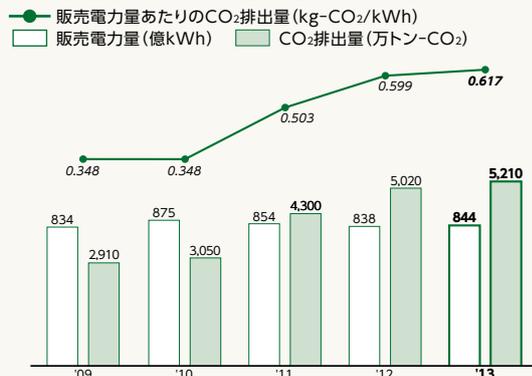


スマトラ島サルラ地区での噴気試験の様子

～ 九州電力のCO₂排出状況 ～

東日本大震災の発生以降、原子力発電所の運転停止が継続し、代替する火力発電の発電量が大幅に増加していることから、CO₂排出量は増加しています。

当社は、今後も低炭素社会の実現に向け、最適なエネルギーミックスの追求を基本に、安全の確保を大前提とした原子力発電の活用、再生可能エネルギーの積極的な開発・導入、火力発電所の熱効率維持・向上及び当社自らの節電・省エネ活動の徹底など、電気の供給面と使用面の両面から地球温暖化対策に取り組めます。



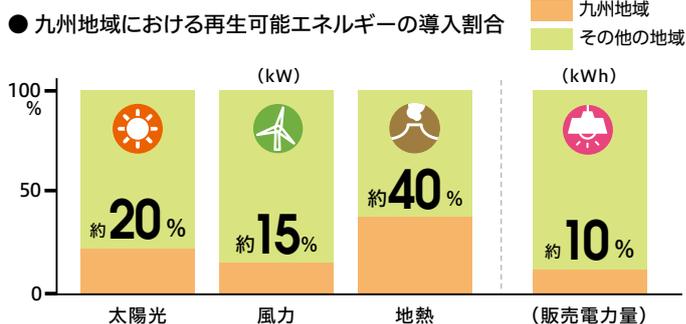
(注1) 国が定めた「事業者排出係数の算定方法」により算出。
(注2) 2013年度の実績値は暫定値であり、正式には「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、国が実績値を公表。

地球にやさしいエネルギーを、しっかりと。

再生可能エネルギー

九州ならではの恵まれた自然環境によって、導入が進んでいます。

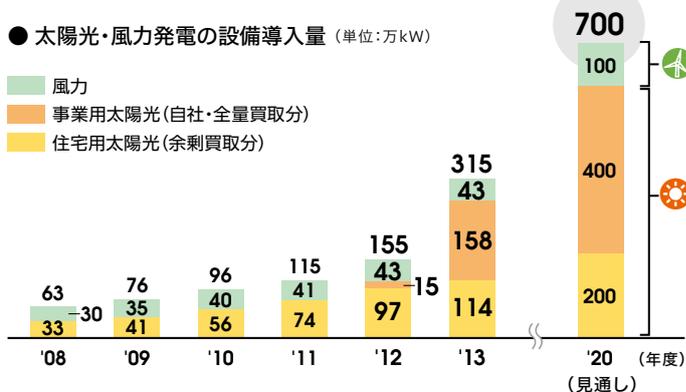
当社の販売電力量は、全国の約10%ですが、自然条件に恵まれていることやこれまで再生可能エネルギーに積極的に取り組んできた結果、太陽光は全国の約20%、風力は約15%、地熱は約40%を占めるなど、九州地域は、再生可能エネルギーの導入が進んでいます。



2020年度までの導入見通しは、700万kWとなっています。

当社は、国産エネルギーの有効活用、並びに地球温暖化対策として優れた電源であることから、太陽光・風力・バイオマス・水力・地熱などの再生可能エネルギーの積極的な開発、導入を推進しています。

2012年7月に固定価格買取制度(FIT)が開始され、太陽光の連携申込みが急増してきました。このため、2020年度の太陽光・風力の導入見通しを、2013年3月に300万kWから700万kWへ拡大しました。



導入拡大に向けて、課題克服に取り組んでいます。

今後も再生可能エネルギーの普及は進んでいくことが予想されますが、太陽光・風力発電の導入にあたっては、以下のような課題もあります。

- ・ 設備の価格が高い
- ・ 日照時間等の自然状況に左右されるなどの理由から利用率が低い
- ・ 地形等の条件から設置できる地点が限られる
- ・ 大量導入時には、需要が少ない時期に余剰電力が発生する等の問題が生じる可能性がある
- ・ 出力変動が大きいため電力品質(電圧・周波数)に影響を与える

当社は、これらの再生可能エネルギーが大量に普及した場合においても、引き続き電圧や周波数が安定した高品質な電力を供給できるよう、系統安定化に関する技術開発等を推進しています。

具体的には、スマートグリッド実証試験や、離島では、蓄電池を設置し、太陽光等による周波数変動を抑制する実証事業に取り組んでいます。

●離島における蓄電池実証事業

対象離島	蓄電池容量(kW)	実証予定期間
い き 岐 (長崎県)	4,000	2012~2014年度
つ し ま 馬 (長崎県)	3,500	
た ね が し ま 種 子 島 (鹿児島県)	3,000	2013~2016年度
あ ま み お お し ま 奄美大島 (鹿児島県)	2,000	

(注) 経産省(奄岐)及び環境省(その他3島)の補助事業。

九州ならではの恵まれた自然環境をいかし、九州電力グループ一体となって再生可能エネルギーの開発・導入に積極的に取り組んでいます。

自然の力を電気に変える、再生可能エネルギーの開発への取り組み。

太陽光発電

グループ会社の(株)キューデン・エコソル^{※1}が、当社の旧相浦発電所跡地に佐世保メガソーラー発電所(出力10,000kW)を建設し、2014年3月に運転を開始しました。

※1: 2014年7月以降は、九電みらいエナジー(株)が事業を実施。



佐世保メガソーラー発電所
(グループ会社の(株)キューデン・エコソル)^{※1}

風力発電

現在、グループ会社の串間ウインドヒル(株)が、宮崎県串間市において、風力発電事業(2019年運転開始予定)に向けた環境影響評価の手続きを進めています。

水力発電

2013年10月に一ツ瀬維持流量^{※4}発電所(最大出力330kW)の運転を開始しました。

また、当社は、佐賀県が公募した「中木庭ダム小水力発電事業(最大出力195kW程度、2016年4月運転開始予定)」にグループ会社(西技工業(株)、(株)九電工)との連合体で応募し、事業者として特定を受けました。自治体が所有する既設ダムにおいて、新たに民間の事業者が小水力発電所を設置・運営するのは、九州で初めてとなります。

※4: ダム下流の生態系の保護など河川環境の維持のために放流する必要流量

バイオマス発電

熊本市が進める「下水汚泥固形燃料化事業」に電源開発(株)と参加し、下水汚泥から作った固形燃料を2013年4月から当社松浦発電所で石炭と混焼しています。



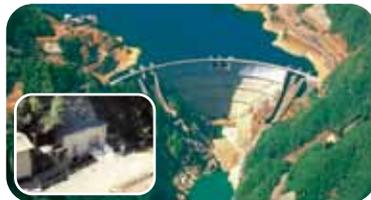
固形燃料化された下水汚泥

地熱発電

グループ会社の西日本環境エネルギー(株)^{※2}が、大分県九重町において、菅原バイナリー^{※3}発電所(出力5,000kW)を建設し、2015年3月の運転開始を目指しています。

※2: 2014年7月以降は、九電みらいエナジー(株)が事業を実施

※3: 地熱バイナリー発電とは、従来使用できなかった比較的低温の蒸気・熱水を利用する発電方式。



一ツ瀬維持流量発電所と一ツ瀬ダム

担当者の声

再生可能エネルギー会社の設立に向けて

事業推進本部 発電事業グループ[※]では、主に再生可能エネルギー(以下、再エネ)事業に関する方針立案や新規事業の具体化を検討しています。

具体的には、再エネの開発、導入を更に加速するため、また、公共・産業分野等のお客さまからの再エネへの幅広いニーズにワンストップで対応するため、グループ大の再エネ事業を集約し、開発体制を強化する観点から、再エネ電源全般の開発を行う新会社設立

の検討を行ってきました【新会社名:「九電みらいエナジー(株)」平成26年7月1日設立予定】。

構想から設立まで一年少しという期間の中で、関係グループ会社や関係本部の協力のもと、計画通り検討を進めることができたと思います。当グループでは引き続き、再エネの普及拡大に向けた取り組みを推進していきます。

※:平成26年7月1日 再生可能エネルギー事業グループへ名称変更予定。

事業推進本部 発電事業グループ
いし ぼし よし のぶ
石橋 佳信



環境にやさしい取組みを、着実に。

関係自治体と環境保全協定を締結し、遵守しています。 地域環境の保全

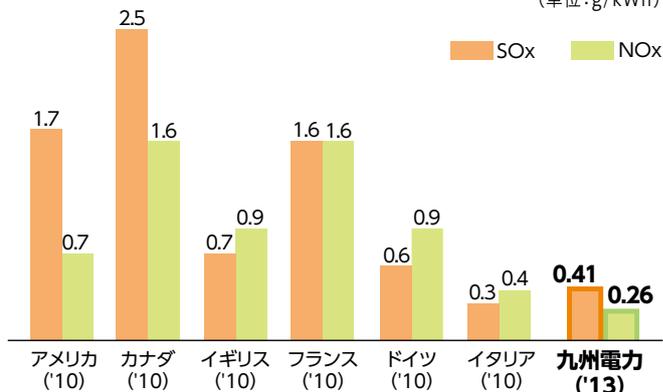
火力発電所から排出される硫黄酸化物(SOx)・窒素酸化物(NOx)等の排出を低減するため、様々な対策を行っています。

2013年度のSOx・NOx排出量は、

	〈2012年度〉	→	〈2013年度〉
・ SOx:	0.30g/kWh (2.6万トン)		0.41g/kWh (3.3万トン)
・ NOx:	0.29g/kWh (3.7万トン)		0.26g/kWh (3.4万トン)

となり、NOxは2012年度排出量より減少したものの、SOxは増加する結果となりました。これは、原子力発電所の停止に伴い火力発電電力量が増加したことや、石油火力発電において比較的硫黄分が高い燃料を使用したことによるものです。

● 世界各国の火力発電電力量あたりのSOx・NOx排出量 (単位:g/kWh)



出典:[海外] (排 出 量) OECD, OECD.StatExtracts (Environment, Air and Climate) (発電電力量) IEA, ENERGY BALANCES OF OECD COUNTRIES 2012 EDITION

循環する社会を目指しています。 循環型社会形成への取組み

産業廃棄物や一般廃棄物については、適切な管理・処理を行うとともに、

- ・ 発生量の抑制 (Reduce:リデュース)
- ・ 再 利 用 (Reuse:リユース)
- ・ 再 生 利 用 (Recycle:リサイクル)

の3Rを実践し、循環型社会の形成に取り組んでいます。

なお、古紙のリサイクルについては、2002年以降、100%リサイクルを継続しています。

● 回収した古紙で作った製品



担当者の声

フライアッシュを活用した 低炭素コンクリート混和材の研究開発

技術本部 技術戦略グループ
まつもと けん
松本 健



当社は、火力発電所で石炭を燃やした際に発生するフライアッシュ(灰)等を使い、コンクリート性能を向上させる新しい材料(以下、混和材)の研究開発に取り組んでいます。

この混和材をセメントの一部と置き換えることにより、使いやすく長持ちするコンクリートの製造が可能となります。また、セメントと比べて、製造時の燃料使用量を削減できることから、CO₂排出量の削減にも貢献できます。

今後、日本国内での実用化を進め、本技術のニーズが高いと思われるアジア地域への普及についても検討していきます。



コンクリート混和材を使用した試作品

九州電力グループは、事業活動に伴い環境に負荷を与える様々な物質を排出しています。このため、発電所等での環境保全対策や、循環型社会形成への取組み、設備形成における環境への配慮など、様々な環境活動を展開しています。

環境との調和を大切にしています。 地域環境の保全

環境アセスメント(環境影響評価)の実施

発電所などの建設にあたっては、環境影響評価法等に基づき、その周辺環境の保全を図るため、自然環境(大気、水質、生物)等の調査を行い、建設や運用が周辺環境に及ぼす影響を事前に予測・評価し、その結果に基づいて環境保全のための適切な措置を講じています。

塚原^{つかばら}発電所(水力)の更新計画では、2013年12月に環境アセスメントに係るすべての手続きが終了し、2014年5月から更新工事を始めています。

また、大岳^{おおたけ}発電所(地熱)の更新計画では、これまでに環境アセスメントの方法を決定する手続きを終了し、2013年9月から1年間にわたる自然環境調査を行っています。

● 水質調査の様子



無電柱化の推進

無電柱化については、都市景観への配慮や安全で快適な通行空間の確保等を踏まえ、全国大での合意(国土交通省、関係省庁、電線管理者等)に基づき、1986年度から計画的に進めています。

これまでの取組みにより、当社管内では、市街地の幹線道路等を中心に、約780km(2014年3月末現在)を無電柱化しました。

● 鹿児島県内の整備路線(2013年度)



無電柱化前



無電柱化後

担当者の声

大岳発電所更新計画における環境アセスメントの取組み

地域共生本部 環境アセスメントグループ
ふくやま けんた
福山 健太



大岳発電所の設備更新計画に伴い、環境アセスメントの手続きを行っており、現在は、現地での大気関係、動植物関係などの環境調査を実施しているところです。

大岳発電所周辺は阿蘇くじゅう国立公園でもあり、自然豊かな地域でもあることから、数多くの貴重な動植物が確認されています。また、大岳発電所は標高約1,000mに位置するため、冬は日中でも氷点下となり、九州とは思えないぐらいの積雪に見舞われるなど、厳しい環境の中での調査となりました。

今後も、引き続き地元の方々との協力を得ながら調査を行うとともに、調査結果を踏まえた予測・評価を適切に行い、できる限りの環境の保全のための対策を図っていきます。



鳥類(ノスリ)確認状況

現地調査の状況

地域に根ざした取組みを、皆さまとともに。

環境の大切さを伝えています。

エコ・マザー活動

地域のお母さまが「エコ・マザー」として保育園などを訪問し、環境問題への「気づき」となる環境紙芝居の読み聞かせなどを通じ、小さなお子さまに環境に配慮することの大切さを伝える活動です。2003年度から開始したこの活動は、2013年度までに2,600回以上実施し、およそ18万名のお子さまや保護者の皆さまにご参加いただきました。

●エコ・マザー活動の様子(あけぼの保育園(福岡県福岡市))



●「もったいないはちきゅうをまもるココロンパ!」



【ストーリー(省エネルギーを題材とした紙人形劇)】
つけっぱなしにして出かけたことで、「たくちゃん」一家のテレビが熱で真っ赤になり、他の家電製品たちも大騒ぎ。この出来事を通じて、一家が省エネに目覚める物語。

●「もりじいとなかまたち」



【ストーリー(環境問題を題材とした紙芝居)】
幼い兄妹が、「森の大大木」や「雲」、「清流」など「自然の仲間たち」から、地球温暖化や河川の汚染などの環境問題で困っていることを聞かされ、「環境を守るために自分たちにもできること」を考え、行動へのきっかけとする物語。

次世代層向け環境教育

地域の小・中学校にて、環境やエネルギーに関する出前授業などをはじめとする次世代層向けの環境教育を実施しています。

日向電力所、日向土木保修所及び^{みみかわ}耳川水力整備事務所は、関係漁協との協働で、宮崎県^{みさと}美郷町内の小学生が耳川のダム湖内で稚魚を放流するイベントを実施しました。



担当者の声

稚魚放流体験に参加して

宮崎県の北部を流れる耳川には、古くから7つのダムがあります。現在、耳川水力整備事務所では、流域の浸水被害を低減するため、^{さいごう}西郷ダム、^{やますばる}山須原ダムの改造工事を実施中です。

耳川をいい川にするために、我々は河川環境保護にも積極的に取り組んでいます。今回、関係漁協の方々とも協働で、地元の小学生がダム湖内でアユなど

の稚魚を放流するイベントを実施しました。

子どもたちは、元気よくバケツから稚魚を放流すると、「大きく育ってね」と期待を込めて見送っていました。そんな子どもたちの笑顔を見て、川の生き物とふれあう良い機会が作れたという思いと、この体験を通じて川を大切にする意識を持ってくれるとよいなと感じました。

耳川水力整備事務所 防災・環境グループ
たき ぐち ひろ とし
滝口 博敏



人も自然も大切な財産です。未来を担う子どもたちのために、そしてこの豊かな自然環境をしっかりと未来につなぐために、地域社会と関わり合う様々な活動を展開しています。

ボランティアによる育林活動等を実施しています。

九州ふるさとの森づくり

「九州ふるさとの森づくり」は、当社創立50周年を記念して2001年度から取り組んでいる植樹・育林(下草刈)活動であり、低炭素社会実現への寄与や生物多様性の保全を目的として九州各地で展開しています。

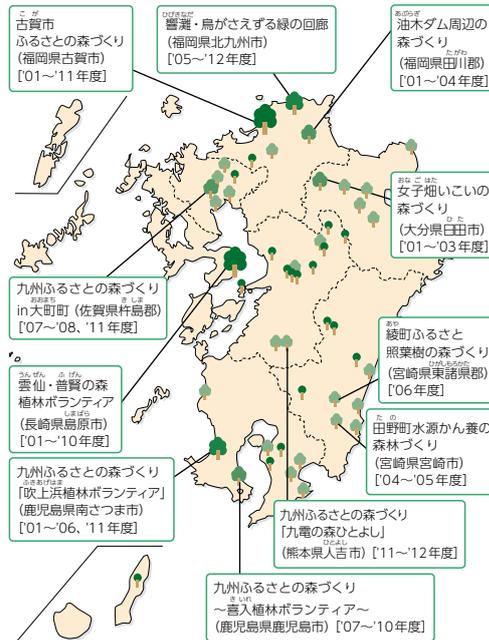
2013年度は、約3,700名の皆さまのご協力により、16か所でボランティアによる育林活動などを実施しました。



●「ふるさとの森づくりin大町町」育樹作業(佐賀県杵島郡)

は10万本以上
 は5万本以上
 は3万本以上
 は1万本以上
 は5千本以上
 (累計)

● これまでの主な植樹箇所(累計5,000本以上)



地域とのコミュニケーションに取り組んでいます。

坊ガツル湿原における環境保全活動

大分支社では、坊ガツル湿原における野焼き活動について、1999年に地元関係団体などとともに「坊ガツル野焼き実行委員会」を発足させ、翌2000年に32年ぶりに野焼きを復活させました。以降、毎年ボランティアとして委員会の運営や、野焼き活動への協力を続けています。



担当者の声

坊ガツル野焼き活動に参加して

野焼きは、多くの参加者の協力が必要であり、大変危険な作業ですが、大自然の中で身体を動かすと清々しく、無事に作業を終えた時に味わう達成感は忘れられません。

私は、地域との大切な接点の一つとして、この野焼きの事務局を担当しています。地域の皆さまと協力し、

社員一人ひとりが活動に取り組む姿を通じて、九州電力を少しでも身近に感じてもらえれば嬉しく思います。坊ガツルは稀少植物も多く、こうして野焼きを行うことで自然を守ることができています。また、夏には美しい緑一面の湿原が広がり、訪れる多くの人を癒やしています。

大分支社 企画・総務部 地域共生グループ
いのちのうえとある
井上 徹



ご家庭における節電取組みのポイント

次のような節電の取組みがおすすめです。

夏の節電時にご注意いただきたいこと

- ❗ エアコンの控え過ぎによる体調不良に気をつけて、無理のない範囲で節電をお願いします。
 - ・屋内でも熱中症などにかかることがありますので、普段から、室温管理や水分補給に留意いただき、熱中症などには十分にご注意ください。
 - ・特に、ご高齢者、乳幼児、体調・体力に不安のある方がいらっしゃるご家庭は、十分にお気をつけください。
- ❗ 節電を意識するあまり、衛生面、安全面及び防犯面で不適切なものとならないようご注意ください。

冬の節電時にご注意いただきたいこと

- ガス・石油ストーブ等を使用される場合には、特に以下のことをご注意ください。
- ❗ ガス・石油ストーブを使うときは、窓を開けるなどして必ず換気してください。
 - ・自動的に排気する機器は、ファンの作動音を確認してください。
 - ・物が燃えるには、新鮮な空気(酸素)が必要です。空気が不足すると、不完全燃焼を起こし一酸化炭素が発生します。
- ❗ 洗濯物や布団などは、ストーブの近くに置かないでください。
 - ・洗濯ばさみ等で留めたつもりでも、落下の危険性があります。
 - ・寝返りをうった時に接触して火災になった事例もあります。



エアコン

夏の取組み

- 室温28℃を心がける。
節電効果(削減率) 10%*
※:設定温度を2℃上げた場合。
- 「すだれ」や「よしず」などで窓からの日差しを和らげる。(エアコンの節電になります)。
節電効果(削減率) 10%
- 無理のない範囲でエアコンを消し、扇風機を使用する。
(除湿運転やエアコンの頻繁な入・切は、電力の増加になる場合があるため、注意が必要です。)
節電効果(削減率) 50%

冬の取組み

- 重ね着などをして、室温20℃を心がける。
節電効果(削減率) 7%*
※:設定温度を2℃下げた場合。
- 窓には厚手のカーテンを掛ける。
節電効果(削減率) 1%



冷蔵庫

- 冷蔵庫の設定を夏は「強」から「中」に、冬は「弱」に変え、扉を開ける時間をできるだけ減らし、食品を詰め込み過ぎない。(食品の傷みにご注意ください。)
節電効果(削減率) 夏2% 冬1%



照明

- 日中は不要な照明を消す。
節電効果(削減率) 夏5% 冬4%



テレビ

- 省エネモードに設定するとともに、画面の輝度を下げ、必要な時以外は消す。
節電効果(削減率) 2%*
※:標準→省エネモードに設定し、使用時間を2/3に減らした場合。



温水洗浄便座(暖房便座)

- 温水オフ機能、タイマー節電機能を利用する。
- 上記の機能がない場合、使わない時はコンセントからプラグを抜く。
節電効果(削減率) いずれかの対策により1%未満



ジャー炊飯器

- 早朝にタイマー機能で1日分まとめて炊いて、冷蔵庫や冷凍庫に保存する。
節電効果(削減率) 夏2% 冬1%



待機電力

- リモコンの電源ではなく、本体の主電源を切る。
- 長時間使わない機器はコンセントからプラグを抜く。
節電効果(削減率) 夏2% 冬1%

(注1) 効果の記載値は、夏は在宅家庭の昼間ピーク時の消費電力(約1,200W)に対する削減率、冬は通常エアコンを使用されるご家庭の夕方ピーク時の消費電力(約1,400W)に対する削減率の目安です(資源エネルギー庁推計)。
(注2) 上記のご家庭における節電の取組み及び節電効果については、経済産業省「夏季の節電メニュー(ご家庭の皆様)」、「冬季の節電メニュー(ご家庭の皆様)」から引用しています。

本ダイジェストについてのご意見・お問い合わせ先

九州電力株式会社 地域共生本部 環境計画グループ

TEL(092)726-1533 FAX(092)761-7368 <http://www.kyuden.co.jp/>



古紙パルプ配合率100%再生紙を使用



Kyushu Environmental Management Corporation
このダイジェストに使用している用紙は、九州電力グループで発生・回収した古紙を再生したものです。



九州電力
環境活動シンボルマーク

このシンボルマークは、九州電力グループが取り組む4つの事業領域(環境にやさしいエネルギー事業、情報通信事業、環境・リサイクル事業及び生活サービス事業)を「4つ葉のクローバー」でデザインしたもので、クローバーの葉は、Energy、Ecologyなどの「e」を意味し、九州電力がグループ全体の事業活動を通じて環境活動を推進していく姿勢を表現しています。



ずっと先まで、明るくしたい。